



事業箇所

地域の皆さんの意見をもって、山岳景観や山岳溪流のイメージを持たせつつ観光拠点を保全し、土砂災害からの安全を確保する溪流保全工を整備した事業です。



整備前 平成15年11月

蒲田川本川 川幅21m 左俣谷・右俣谷 川幅10m

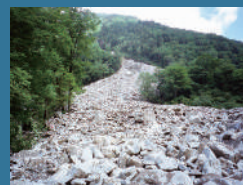


整備後 令和6年7月

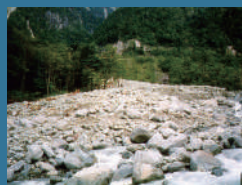
蒲田川本川 川幅33m 左俣谷・右俣谷 川幅20m

過去の災害とおもな出来事

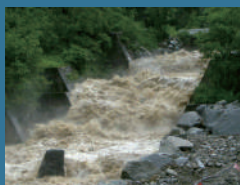
年	おもな出来事
1997 H9	7月 左俣谷上岩小屋沢で土砂流出
1998 H10	9月 穴毛谷で土砂流出
2000 H12	左俣谷・右俣谷合流点処理 整備計画検討委員会 水理模型実験による安全性検証 (H10-H11、H16)
2004 H16	H15 新穂高地域づくり座談会 H15-H16 工事前の環境調査
2005 H17	11月 新穂高溪流保全工起工式
2006 H18	7月 梅雨前線豪雨 護岸被災
2007 H19	6月-7月 希少高山植物の移植
2008 H20	6月 希少高山植物の移植
2010 H22	7月 ドロノキ移植
2015 H27	5月 恵橋開通式
2016 H28	H28-R2 周辺環境整備に関し地域の皆さん・ 関係機関との検討会や意見交換会
2020 R2	7月 梅雨前線豪雨 (新穂高地区被害無し)
2024 R6	9月 竣工式



平成9年7月 梅雨前線豪雨
土砂流出 約30万m³
(左俣谷上岩小屋沢)



平成10年9月 台風8号
土砂流出 約10万m³
(穴毛谷)



平成18年7月 梅雨前線豪雨
右俣谷での出水状況



平成18年7月 梅雨前線豪雨
護岸被災状況

観光拠点の保全



新穂高ロープウェイ



新穂高温泉

溪流保全工の整備により
観光拠点を土砂災害から
守ります。



奥飛騨温泉郷
新穂高溪流保全工



おこじん

国土交通省北陸地方整備局
神通川水系砂防事務所

〒506-1121
岐阜県飛騨市神岡町殿1020番地4
TEL : 0578-82-1220
FAX : 0578-82-2461



栃尾出張所

〒506-1423
岐阜県高山市奥飛騨温泉郷栃尾930番地
TEL : 0578-89-2052 FAX : 0578-89-3553

奥飛騨さぼろ塾

〒506-1422
岐阜県高山市奥飛騨温泉郷中尾2番地34
TEL 0578-89-2133

表紙: 令和6年7月撮影 2024.9



国土交通省 北陸地方整備局
神通川水系砂防事務所

新穂高渓流保全工

新穂高地区は、水源が槍ヶ岳(標高3,180m)に発する右俣谷と、水源が樺沢岳(標高2,755m)に発する左俣谷の合流点周辺で、新穂高温泉や新穂高ロープウェイが整備されており、槍ヶ岳・穂高岳の登山口とともに自然環境を満喫できる観光拠点として利用されています。

事業の経緯

左俣谷、右俣谷は上流域が脆弱な地質のうえ、多雨多雪の気象条件も相成って土砂流出が発生しやすい地区です。また、蒲田川は河床が1/10～1/15と急勾配で川幅が狭く、隣接する宿泊施設や観光施設への被害が懸念されていました。

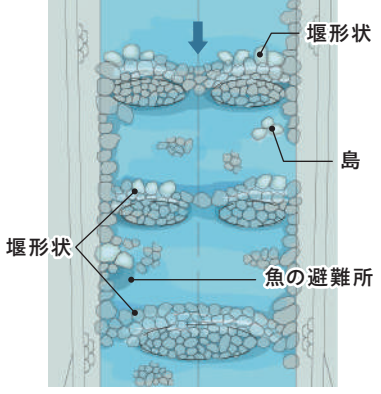
このため、地域の山岳景観、親水性等に配慮しつつ、土砂災害に対する安全性の確保を目的に、流出土砂をスムーズに流下させるとともに、流出土砂の抑制を図る土砂災害防止施設(渓流保全工)の整備を平成17年より進め、令和6年に完成しました。

0m 20m 40m 60m 80m 100m



底張工での深瀬・浅瀬を創出する巨石の配置

堰形状に巨石を配置し、その下流側の川底を若干深くして淵を創出しています。護岸際には直径1.5m以上の巨石を配置し、魚の避難場所となるよう工夫しました。



現地石材の活用

砂防施設を土石流等による摩耗から守るために、コンクリートの表面に巨石を張っています。径0.5～2.0mの巨石をふんだんに利用し、新穂高地区の河原に近い景観となるよう工夫しました。

大転石との戦い

河道内掘削の際には、新穂高地区の特性である大転石に多くの苦労を要しました。



イワナの産卵環境の保全

左俣谷下流砂防堰堤の上流左岸の細流について、イワナの産卵環境保全のため、専門家のアドバイスをいただきながら、石組みによる魚道を整備しました。



左俣谷下流砂防堰堤



高さ7.2m 長さ92.0m
貯砂量5,704m³
H20.9着工 H23.3完成

右俣谷下流砂防堰堤



高さ8.8m 長さ83.0m
貯砂量9,531m³
H17.8着工 H21.3完成

渓流保全工の諸元

着工:平成17年
完成:令和6年

計画延長	L=650m	
流域面積	蒲田川(合流後)	A=62.7km ²
	左俣谷	A=30.5km ²
	右俣谷	A=32.2km ²
計画流量	蒲田川(合流後)	Q=760m ³ /s (100年に1回の洪水)
	左俣谷	Q=380m ³ /s
	右俣谷	Q=380m ³ /s
計画河幅	蒲田川(合流後)	B=33m
	左俣谷	B=20m
	右俣谷	B=20m
計画勾配	蒲田川(合流後)	1/28～1/18
	左俣谷	1/18～1/16
	右俣谷	1/18～1/17
整備施設	砂防堰堤	2基
	床固工	5基
	護岸工	1式
	帯工	1基
	橋梁	2橋

貴重な動植物の保全

～高山動植物の生息環境を守る～

施工に伴い伐採したドロノキを、地元小学生の皆さんと一緒に地獄平砂防堰堤上流へ挿し木により移植しました。

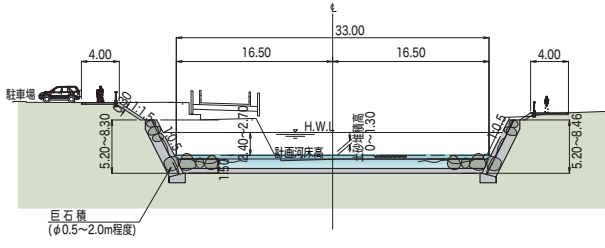


工事に携わる方々や地元小学生の皆さんと一緒に希少な高山植物を工事実施範囲外へ移植しました。

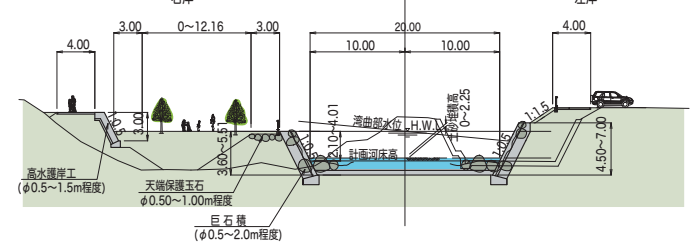


標準断面図

蒲田川本川



右俣谷



冬期施工における工夫

非出水期の施工とされた中で現場は冬期施工となるため、コンクリート養生に温泉の熱を利用しました。(写真は温泉配管敷設状況)



地域の皆さんや関係機関との協力体制

工事着工前から着工後も地域の皆さんと安全・安心に必要な施設計画や山岳景観・渓流のイメージについて意見交換を積み重ね、新穂高渓流保全工をつくりあげていきました。